

活動名：赤木 SSS、緑ヶ丘 SSS、開成 SSS さん練習試合

日 程：平成27年10月12日(月祝)

会 場：富久山スポーツ広場

参 加：トップ6クラス(六年男子) 14名

          トップ5クラス(任意参加者) 11名

帯 同：設楽、熊坂、大森コーチ

対戦相手：赤木 SSS、緑ヶ丘 SSS、開成 SSS さん

緑ヶ丘 SSS さんからずっと練習試合のお誘いを受けており、なかなか日程が合わず、やっと実現した機会でした。

来月14日から全日本少年サッカー大会の県予選が始まり、出場する緑ヶ丘さんや赤木 SSS さんは上位を狙うチームです。そのお相手としてアーレを招いていただいたことは光栄です。赤木 SSS さんの会場セッティングの日に開成 SSS さんも含めて4チームで試合を行いました。

そのため、フレンドリー的ではなく、相手に対しても本気モードで試合をする必要があり、公式戦の気持ちで選手たちには挑んでももらいました。

また、朝の代表者打合せの中で、他チームが5年生以下のチームを連れてきており、アーレも五年生の人数が集まるのならやりましょう！と言ってくれたことから、急遽、熊坂コーチに行健第二小の練習会場へ行ってもらい、参加できる選手に集まってもらい試合をすることができました。急なことだったので、家庭でいろんな用事が練習後にある中、集まってくれた選手たちにはとても良い経験になったと思います。

これから冬期になるので、体育館練習が中心になり大会も残すはフットサル競技へと移行するため、アーレとしては最後の8人制試合になりました。

また、フットサルは五人制のため、大会も人数が多い6年生全員で参加すると出場機会が少なくなるので、多く出場してもらうためにグループ分けをして大会出場の対象選手を分けることになるため、最後に全員で一緒に試合をする機会でもありました。

私は T6 クラス担当の熊坂コーチが帯同できない日でもあったことから主で指揮をとりましたが、結果、熊坂コーチが調整してくれて一日中居てくれたので一緒にコーチングすることができ良かったです。私としても6年生たちには最後の試合の指揮になるとの思いから、中学校サッカーに繋がる願いを込めて厳しくコーチングさせていただきました。

さて、試合内容については、T6 クラスについて報告します。

まず、緑ヶ丘 SSS さんとの試合ですが、相手のボールを奪うこと、パスをつなぐこと、シュートを打つことはできていましたが、とくにシュート数はアーレが上回っているのに点を決めることができない内容で、シュートの精度が低く、終わってみると負けていた、なぜ？といった内容でした。

これは、ボールポゼッションが高くても点を取らないと勝てないといったサッカーの基本的なことで、選手自身も負けた気がしない悔しい試合だったでしょう。

中盤からのミドルシュートは大きな得点のチャンスでした。ゴールへ届くのかも筋力的なところもあり、自分のシュートレンジ（シュートを打てる範囲）もそれぞれですが、遠目からシュートを打たないと緑ヶ丘 SSS さんのようにしっかりと後ろを固めて守備された相手には、なかなか得点を奪うことができません。そのため遠目からのシュートが重要となります。

私は特にこの学年はシュート数に対して得点が少ないため、自分の練習ではシュート練習を多くやっています。また、練習前や練習後などにも個々にシュート練習をしている選手を多々見ます。しかし、試合をイメージして蹴っているのか？といったところが試合で点が取れるかのポイントとなり、その技術は気持ちや感覚的なものも大きいので、常に試合を意識したシュート練習をしていないと「ただ蹴り」となり身に着かず、試合中でもシュートを打ってもゴール決めることはなかなかできないものです。その結果が残念ながら出てしまったように思います。

6年生ではキックの精度を中学へ向けて身につけて欲しいと思いました。アーレの短い練習時間ではきっかけ程度で、やはり個々の練習で身につけるしかないでしょう。サッカーの遊びや練習前後の自主練で頑張ってもらいたいですね。

緑ヶ丘 SSS さんはフィジカルも高く身長差もありました。赤木 SSS さん、開成 SSS さんとは、フィジカルも身長も同じぐらいのチームでした。緑ヶ丘 SSS さんとの試合に出ていない選手を中心に挑みました。

自分たちの技術に不安を感じているのか？自信が無いのか？後手後手のプレーとなり、相手のボールを追うだけのプレーになってしまい、多くの失点を赤木 SSS さんとの試合ではしてしまいました。気持ちが入っていなかったように思います。

小学生年代ではレギュラーやサブなどを決めてチームとして活動をしたくないアーレですが、6年生になると個々の技術の差が出てきてしまい、今回のチーム構成もそのように自分で感じて試合に挑んだように思えました。

楽しいサッカーですが、その技術の差には練習量もありますが、どれだけ目標を持って練習に励むのかで違います。その意識の違いで同じ練習をしていても徐々に差が出てきてしまうものです。中学校になるとこの差が「試合に出る生徒と出られない生徒」に分けられ、部活やクラブチームで楽しく活動できるかが心配です。厳しい現実に対処していくためには、残り少ないアーレでの活動で少しでもスキルアップして、他のチームの子どもたちと一緒に中学生サッカーでレギュラーを勝ち取ってほしいと願っています。

赤木 SSS さんのスタッフ、ご父兄の方々には会場設営をしていただき、また、緑ヶ丘 SSS さん、開成 SSS さんも試合をさせていただき感謝いたします。有り難うございました。

コーチ：設楽

